

ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

①言語運用能力

全学共通科目の外国語により基礎となる語学力向上を図り、続いて学部開設科目において、グループワークを基礎として対人関係に必要な基本的なコミュニケーション力を身につけます。さらに、基礎看護学実習、領域別実習、統合実習において、臨床に必要なコミュニケーション力を段階的に身につけ、また、チーム医療の中で、多職種と協働・連携できる能力を身につけます。国際的視野に立った高度なプレゼンテーション能力養成のために、少人数による「既修外国語」を1年次より2年次まで連続して受講することにより、英語運用能力を獲得します。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（看護学）として）

人間理解に必要となる幅広い視野と知識の獲得のため、全学共通科目（主題科目、学問基礎科目）を学び、さらに医学・看護の基本的知識を修得するために、1、2年次に専門基礎科学並びに基礎看護学の科目を履修します。その後2年次後期から看護の専門科目（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学）を履修します。また、養護教諭課程は3年次から履修します。講義はグループワークを取り入れた講義・演習形式で行われ、看護学における専門知識と技術を修得し、総合的な実践力を培います。

③問題解決・課題探求能力

全学共通科目の「大学入門ゼミ」において基礎的な問題解決法を学び、2年次の基礎看護方法論と基礎看護学実習により、看護専門分野の理解を深めます。3年次には各領域別の演習・実習をとおして探求力を養います。看護学実習は少人数のグループで実施し、対象者の健康問題を解決するために、看護問題を明確にして看護過程を展開し、問題解決・課題探求能力を身につけていきます。4年次には統合実践看護学をとおして、具体的な課題に取り組み総合的な実践力を高めていきます。さらに「看護研究」では、学生の志向に沿った領域を選択して、保健医療に係わる看護テーマを見出し、質的量的な分析方法を用いた論文作成をPBL（Problem Based Learning）型教育により実施し、問題解決・課題探求能力の向上を図ります。

④倫理観・社会的責任

全学共通科目の「ライフデザイン」において21世紀型市民としていかに生きるかを学び、看護専門教育を受けた上で3、4年次からの「看護倫理」や「統合実習」を含む統合実践看護学の科目を履修することで、看護学における倫理観を身につけ、かつ社会的責任の自覚を養います。またグループワークを取り入れた講義形式と少人数グループによる志向領域での統合実習をとおして、看護学における倫理観・社会的責任をより深く理解し、身につけ、さらに専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を培います。

⑤地域理解

全学共通科目の「ライフデザイン」や「特別主題（地域）」において地域理解への動機づけがなされ、看護専門教育を受けた上で、2年次からの地域生活看護学の科目を履修することで地域保健医療の課題と解決方法を理解します。これら地域理解科目では、講義の目的に応じて講義、グループワーク、フィールドワーク、実習など様々な教授方法を取り入れ、より実践的に地域の課題を理解します。